


東京湾 タチウオ釣りの作法

テンビンではフオール
テンヤでは水平姿勢を作り出す


【微速巻きパイプレーションの一工夫】




この日もアタったのが巻き速度1

左手でリールをパーミング、右手をロッドに添えて上下に揺する

【テンヤを止めたいときは】



水平や上へとパイプレーションで誘ったら、電動巻きと同じ速度で下げていく



やや上を向いていたテンヤが水平でステイするイメージ

【テンビンでのフオールとは】



①竿を下向きに構え




②しっかりとシャク。この時点ではハンドルを巻かない



③強めにシャクって止めた直後、竿先がオモリの重さで曲がる。このとき海中のエサがフオールしてタチウオに食わせる





①



②



③



シャクリの大きさ、強さ、ハンドルを巻く量を調整し、アタリが出る誘いを探っていく松本さん。

「今は強くシャクって、巻きを少なくして大きくフオールさせたほうがいいみたいですよ」と、コツをつかんで連続で釣り上げたところで、船は大型が出るポイントへ。

松本さんはタックルはそのままテンビン仕掛けからテンヤに交換。竿を断続的に上下に揺する、いわゆるパイプレーション釣法で探る。

「パイプレーション釣法は82や91など先調子竿が好まれるのですが、私はしなやかな73調子の竿を愛用しています。」

全体的に軟らかい分、アタリを弾かずには掛けられることが多く、気に入っています」

その言葉どおり、73調子竿のパイプレーションで順調に釣り上げていく松本さん。小刻みにハンドルを回す手巻きに加え、電動微速巻きでのパイプレーションも併用している。

「手巻きのときはテンヤが水平に近い姿勢でヒラを打っては止めるイメージ。微速巻きの場合は、テンヤがやや上を向いてヒラを

【サーベルマスターTT】

「私は73調子を多用するスタイルなので73M190を中心に使いましたが、テンビン、テンヤとも釣りがすかったです。73、82、91と使ってみた印象は、どれもバットがしっかりして操作性がよく、タチウオ釣りに必要とされる基本要素が満たされています。東京湾でオールマイティーに扱いやすいのは82MH。長さは好みだと思います (松本圭一)」

●SPEC 73M190、73MH185、82MH180、82MH195、91H185の5タイプ。全長1.8～1.95m、2本継ぎ、仕舞寸法93.9～101.4cm



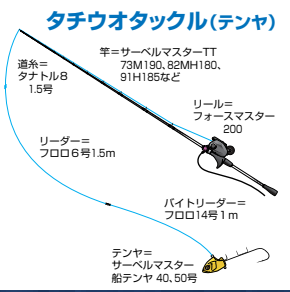
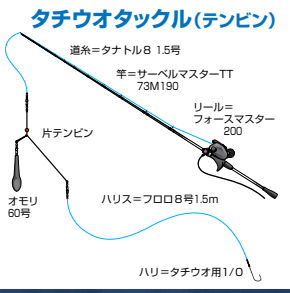
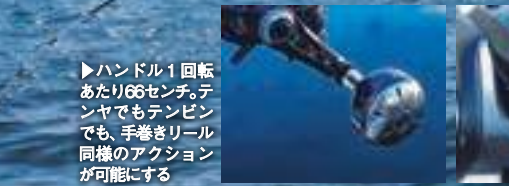
【フォースマスター200】

●SPEC ギア比=8.2 最大ドラグ力=5kg 自重=395g 糸巻量PE=0.8号-270m、1号-220m、1.5号-150m 最大巻上長=66cm/ハンドル1回転 ハンドル長=60mm ベアリング数=ボールベアリング9、ローラー1 実用巻上持久力=3kg 実用巻上速度(分)=148m(1kg負荷)、129m(2kg負荷)、87m(3kg負荷)

タックルの作法

テンヤもテンビンも最も大切なのは操作性

「様々な要素の中で、タチウオ釣りのタックルにおいて最も重要だと思っているのが操作性です。扱いやすさ、パーミング性や疲れにくさ、軽さなど。中でもフォースマスター200のタッチドライブの扱いやすさは秀逸。中間速設定により思わぬ早巻きでバラすことなく、掛かってから落ち着いて速度調整できます。同時にハンドルもハイギア化されているために手巻き同様の扱いやすさや巻き合わせができます。テンヤでもテンビンでも、タチウオ釣りにおいてこの操作性は欠かせません。(松本圭一)」



【サーベルマスター船テンヤ】

これまでの3色にア色が新たに加わり10色のラインナップに。松本さんお気に入りのゴールドに加え、新色のNブラック、Nアカキン、Nイワシは早くも東京湾で実績を挙げている

食の作法

～釣り人ならでは簡単&絶品丼～
風味付けにサンショウがあれば最高です!



◇材料=釣りたてのタチウオ/強力粉適量/サラダ油適量/蒲焼のタレ

①三枚におろしたタチウオの身に、強力粉を両面にまぶし、余計な粉を払い落とす
②フライパンに油をひいて中火で身側から焼き、焼き目が付いたら反対も
③両面こんがり焼いたら、キッチンペーパーで余分な油を拭き取る
④ここに市販の蒲焼のタレを絡めて丼に盛ったご飯に乗せれば蒲焼丼の完成

「船釣りの作法」動画公開中。
YouTube SHIMANO TV
公式チャンネルにてご視聴いただけます。

